報告
REPORT
03

関西経済同友会 代表幹事 生駒京子氏をお迎えして 北山久恵近畿会会長とのご対談

日　時：2022年３月７日（月）14時～16時
場　所：近畿会 会長室
企　画：広報部（ダイバーシティ推進委員会、女性会計士専門委員会、社外役員専門委員会共催）

広報部　副部長　種田　ゆみこ

1．はじめに

近畿会広報部としては、2019年６月から日本公認会計士協会近畿会初の女性会長に就任した北山久恵会長の３年間の活動の仕上げとして、外部団体の長との対談を企画しました。北山会長といえば、日本の公認会計士業界初の女性活躍目的の常設委員会で、30年近くの間、日本唯一の女性会計士のための委員会として存続してきた「女性会計士委員会」に1987年の創設時から関与されています。さらに会長となった2019年には女性会計士のみならず、広く多様な価値観を有する会員の活躍推進を業界に起こすべく、「ダイバーシティ推進委員会」（近畿会HP内にある委員会紹介https://www.jicpa-knk.ne.jp/jyosei/）を新たに設置した方でもあり、今回の対談は、「ダイバーシティ」をテーマにしました。

2．対談者について

今回の対談者は、関西経済同友会代表幹事の生駒京子氏です。生駒氏は、2021年５月の関西経済同友会の総会で、19年ぶりに女性の代表幹事誕生とメディアで大々的に取り上げられていたため、「関西の歴史ある経済団体でトップの地位の女性」としてずっと気になっていました。今回の企画にあたり、北山会長から対談相手に生駒氏を提案され、検索したところ、「新しい世界観つくるダイバーシティ推進へ」「ポストコロナの日本経済復活に向けて示したキーワードは『ダイバーシティ（多様性）』。『女性の活躍推進も当然ながら、ハンディキャップがある方、外国人、若者、高齢者が活躍できるチャンスをつくるべきだ』とまなじりを決す。」というVoice（ボイス）（注１）の記事を拝見し、今回の対談をお願いしました。



3．対談

頁数の関係で、要約した形で、以下に記載しています。

1）自己紹介

まずは、北山会長から簡単な自己紹介をし、生駒氏個人と会社について、質問しました。

生駒氏からは、①自分の性格は素直。昔はものすごく控え目でおとなしい子だったが、子供の頃からピアノの発表会や生徒会副会長立候補演説などで舞台度胸がついた。

②敵をつくらない技を持ち、相手を必ず味方にすることをモットーとしており、「女性（私）には100人の味方がいる」。物おじすることはなく、ハキハキしていて、男性にとっても話しやすい存在かと思う。

③1994年の創業時から自社の社員を大きな家族と考える「大家族主義」を掲げ、女性、シニア、外国人を積極的に活用し、社員が多様性を尊重し生き生きと活躍していく場を提供する、とお話がありました。

2）関西経済同友会　代表幹事としての活動の紹介（簡単に）

北山会長から、「関西経済同友会」について、自分も周りもその会員ではなく、過去に仕事での関与もほとんどなく様子がわからないため、その組織の構成と2人の代表幹事の役割分担について、説明をお願いしました。

生駒氏いわく、まず、会員資格は企業経営者個人で、個人の自由な意思に基づいて入会する点が大きな特徴で、他の経済団体と掛け持ちされる方も多く、生駒氏も大阪商工会議所にも属しています。次に代表幹事は、２人体制、任期２年で、１年ずれの任期順に通称『シニア』『ジュニア』と分かれ、生駒氏は昨年６月に就任してから今年５月までが「ジュニア」の期間で、今は「シニア」の古市健氏（日本生命保険副会長）が全ての方針（2021年度の新型コロナウイルス禍の危機を乗り越えて「フェニックス」のように関西、日本の新たな再生、飛躍を目指す事業計画）を決めていて、この１年間はその下で活動がなされるのを見て学んでいる、ということでした。



ここで、北山会長から、自分と同様に、必ず「女性の～」と形容詞がつくことについて、生駒氏の考えを質問しました。

生駒氏からは、①日本全国に同友会という組織は44団体あるが、2002年に全国で初めての女性代表幹事として、この関西で就任されたのが寺田千代乃氏（当時アートコーポレーション社長）で、そこから19年間女性の代表幹事は出ていなかった。自身が２人目ということに対して、光栄に思う。

②女性だからといって、女性を集めてどうのこうのではないが、女性の視点はいろいろ気付きがあるため、それを活かして動いていけたらと考えている。

③男性が威厳的なのに比べて、私は女性ならではの和やかな雰囲気や温かさを醸し出せたらと思っている。

④代表幹事の役職を打診されて、この組織に入って9年という早い年数や役職経験、男性幹事の世界、会社の規模感の違いなどに、就任前は散々悩んだが、任せてもらったからには、「自分らしさ」を出して成果を出したい。

⑤本来なら「女性の生駒として」と、こちらから訪問するところを、様々な方、例えば外国の大使が自分を指名で遠方からはるばるお越しになることも増えてきた。

その際、周りから「万博出展の依頼」を頼まれ、いくつか出展も実現してきており、代表幹事としての広報活動の成果を少しは出しているかも、とのことでした。

3）関西経済同友会　代表幹事として生駒氏の目指すもの

北山会長から、この対談にあたり生駒氏の本やWebを見ると、「ダイバーシティ」と「デジタル」がキーワードとして挙げられており、代表幹事としての今後の活動について質問しました。

生駒氏からは、①今はこの５月から「シニア」として体制作りを検討中である。そして、ダイバーシティについては、女性会員が増えるよう、対外的に「女性の経営塾」といった実践的な委員会を増やすことを考えている。

②関西経済の成長のためにはデジタル化を加速させることが重要であり、ITの知識を持つ学生と産業界をつなげる働きかけや、社会人がITを学びやすくするための環境整備にも力を入れていきたい。

③グローバルに繋がる活動をしていくのも役目だと思っており、最初は対内整備に力を入れ、自分が考える委員会が動き出したら、代表幹事は広告塔として、更なる対外広報活動に力を入れたいと思っているとのことでした。

4）近畿会初の女性会長として設置したダイバーシティ推進委員会の紹介と目指すもの

北山会長から、2019年４月より近畿会に新たに設置した「ダイバーシティ推進委員会」の歴史と活動について説明し、参考となる冊子をお渡ししました。

近畿会は、全国に先駆けて女性会計士委員会を設置し、女性活躍推進のための活動をしてきました。設置から32年目を迎え近畿会に初の女性会長に就任し、女性会計士のみならず、広く多様な価値

観を有する会員の活躍推進を業界に起こすべく、新たにダイバーシティ＆インクルージョンを推進する委員会を立ち上げ、女性会計士委員会がそうであったように、情報交流のプラットフォームとして、業界を牽引する存在となることを目指して活動している、と説明しました。



5）関西経済同友会の代表幹事として、公認会計士及び公認会計士協会に期待するもの

北山会長から生駒氏に、最後に我々公認会計士に対して一言とお願いしました。

生駒氏からは、「公認会計士については、自社にも仕事で来ていただいたので知っています。

多くの女性が士業の資格をもち、社会で活躍されることはとても素晴らしい。特に公認会計士は資格取得のハードルが高くても、技術や資格を持っていればどこででもやっていける。その方々がダイバーシティ＆インクルージョン（D&I）にも先進的に取り組まれていることが今回わかり、我々産業界もついていかねばと思います。さらに、これを機会に、公認会計士の方に関西経済同友会を知って頂き、北山会長をはじめ沢山の方々に、ご入会頂ければ！」とメッセージとPRも頂きました。（北山会長が入会されるならば私が推薦します！と生駒氏から勧誘の一言は、さすが！）

4. 終わりに

今回の北山久恵会長と生駒京子氏の対談には、広報部副部長の私以外に、ダイバーシティ推進委員会の原繭子委員長と社外役員専門委員会の藤枝政雄委員長も同席頂き、生駒氏の人柄で非常に和やかな雰囲気の中、いつまでも話が尽きずでした。生駒氏には大変感謝で、生駒氏にはまた改めて、「シニア」の成果を伺いたく、近畿会でのセミナーを開催して頂きたいと思いました。



【生駒　京子 氏（いこま・きょうこ）】

2022年３月現在、関西経済同友会 代表幹事。株式会社プロアシスト 代表取締役社長。

1956年、京都市生まれ。大阪電気通信大工学部卒。

大学卒業後、大手ソフトウエア会社勤務、専業主婦を経て1994年に有限会社プロアシストを設立。2001年株式会社に改組。

大阪商工会議所一号議員かつ人材育成委員会　副委員長、大阪産業局理事、日本ＷＨＯ協会理事、生産技術振興協会理事、大阪大学招聘教授なども務めている

【株式会社プロアシスト】

1994年設立。システム開発、WEB開発、人工知能（AI）開発、データ解析サービス、介護・医療機器製造販売。2013年社長の生駒氏が内閣府「女性のチャレンジ賞特別部門賞」受賞、2015年に経済産業省「ダイバーシティ経営企業100選」受賞。従業員230人（HP　22年４月１日現在）。本社は大阪・北浜

（注１）大阪日日新聞 2021年５月25日号より転載